

# 令和3年度 基準範囲共用化委員会報告

## Report from the committee on common-use reference interval in 2021

康 東天 (基準範囲共用化委員会委員長、九州大学名誉教授)

**Dongchon Kang (Chairperson of the committee on common-use reference interval, Professor emeritus for Kyushu University)**

### 活動内容：

共用基準範囲の適応範囲拡大に努めた。

### 委員会開催：

2022年1月20日 書面会議

Q&A 原案に対する確認と承認

### 状況報告：

1. 共用基準範囲について下記の転載申請があり、審議の上、許可した。

- ・株式会社メディカルデータ

「検査と適応疾患 令和3年4月版」

下記の間合せについて回答した。

- ・山本隆之様 ヘパリンリチウム採血による総蛋白基準範囲の適応について

### 2. 共用基準範囲採用 % の推移調査

日本医師会、日本衛生臨床検査技師会の精度管理調査アンケートから年次採用率の推移を調査し、いずれのアンケートにおいても R1 年度より、採用している医療機関が増加していることを確認した。(平均採用率 日臨技 R2 28.3% → R3 37.8%)

特に IFCC 法への変更に伴い共用基準範囲を採用した施設を多く認めた。本アンケートによると ALP 及び LD の共用基準範囲採用率は、それぞれ 77%、63% であった。

### 3. 今後の活動について

年々、共用基準範囲の採用施設は増加傾向にあり、Q&A 等の採用促進ツールを R4 年度に上梓し、より一層の普及に努める。